「県央・湘南地域のポテンシャルと未来」　講演要旨

【日本の人口減少について】

・少子高齢化、人口減少が進んでおり、2050 年の人口は現在と比較して 3,000 万人減少する。

・日本を衰亡させないためにも人を交流させることが必要である。そのため、日本は「観光立国」の施策を行い、訪日外国人を 3,000 万人へと増やすことを目指している。

・また、交通体系やＩＣＴを整備することにより、「コンパクト＆ネットワーク」化していく必要がある。この理念は「国土のグランドデザイン 2050」、「国土形成計画」でも謳われている。

【アジアダイナミズムについて】

・日本の貿易相手国のシェアについて、1990 年は米国が約 30%、大中華圏が約 14%であったが、現在はこの比率が逆転している。

・アジア各国のＧＤＰは年々上昇しており、2040 年にはアジアのＧＤＰが世界の 50%になると予測される。また、昨年の米中貿易額は日米の約３倍になったと予測される。

・米中貿易は最短である日本海側を通るルートが中心となっており、日本海は米中貿易でラッシュ状態である。

・日本においても、中国を始めとするアジアに向けて、太平洋側港湾から日本海側港湾へ物流がシフトしており、新潟港などの日本海側港湾の重要性が増している。

【圏央道について】

・日本はこれまで、東京都心を基点にして放射状にすべての高速道路をつくってきたため、首都高に車が集中し、絶えず混んでいたが、圏央道が整備されたことにより、東名高速、中央道などから首都高を通過せずに、関越道に抜けられる回廊が開通した。つまり、東名高速、中央道などの沿道地域が新潟港などの日本海側港湾と繋がった。

・山梨県はこれまで、中央道の混雑等により、企業立地としては避けるべき地域だったが、圏央道が整備され、日本海側、太平洋側の両方にアクセスできる地域となり、再評価されている。

【リニア中央新幹線について】

・リニアの整備により 7,000 万人の人口ゾーンが１時間で繋がる。

・相模原から品川まで 10 分で行けることも重要だが、山梨県駅へ 10 分で行けることも同じくらい重要である。

・相模原は圏央道のインターチェンジとリニアの駅がドッキングし、相模原までのアクセスは向上するが、「観光立国」という観点からも、そこから周辺を動き回るための総合交通体系が課題になると思う。

【新しい発想で国土を豊かにしていく】

・人口減少により日本を衰亡させないためのキーワードは「移動と交流」である。

・海外から日本に来てもらう（インバウンド）、また国内の移動を促すことが必要である。

・国内の移動については、団塊世代の「二地域居住」を推進することも一つの方法である。

・インバウンドについては、インダストリアルツーリズムなど、ハイエンドなリピーターを引き付ける装置と戦略が必要である。

・「観光立国」を目指す上で、観光等のサービス業に従事している人の年収を上げるなどの環境を整え、観光業を発展させることが必要である。

以　上